

攻めるオーナー経営者のための

TOP

NIKKEI

日経トップリーダー
LEADER

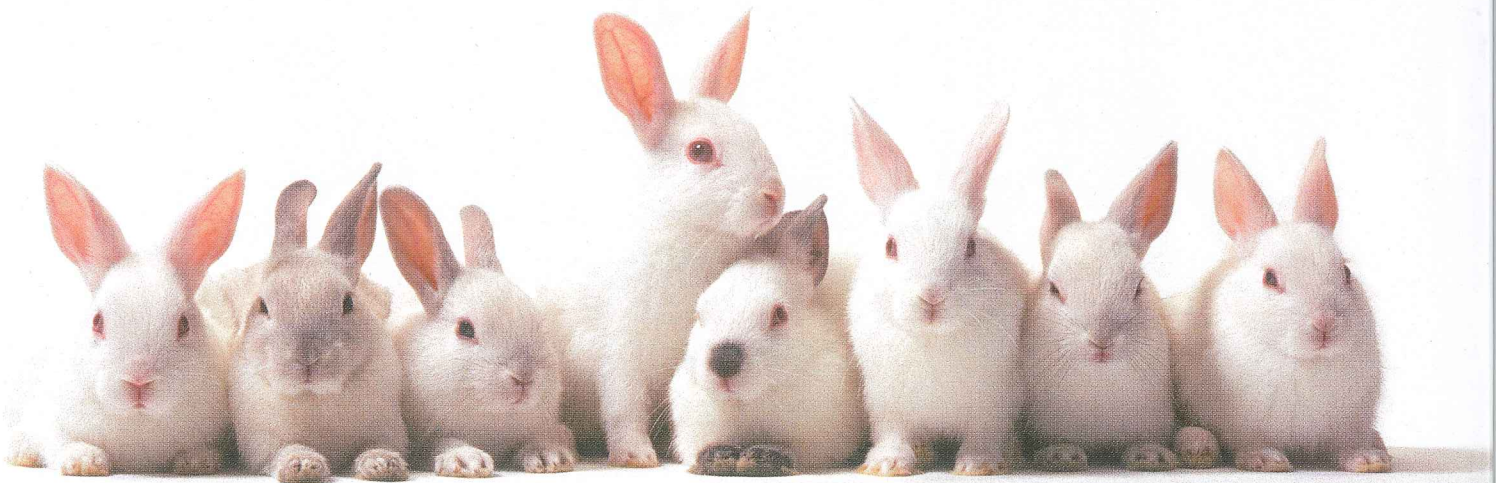
2011年1月1日発行(毎月1日発行) 第316号 1984年11月22日第3種郵便物認可

1
2011

特集

2011年 中小企業予測

大倒産時代到来 立ち上がれ、経営者!



特集

「1ドル70円時代」に負けない!

まだやれる円高対策

新連載

地方の強い経営者

私の知恵袋

岩塩洞窟ホテルでリフレッシュ！



岩山の地下の大きな洞窟は、独特の臭いと静けさで満ちている

アゼルバイジャンという国はカスピ海の西岸にある。「風の町」という意味の街、バクーが首都だ。アゼルバイジャンは領土問題を抱えており、隣国アルメニアを越えて「飛び地」にも領土がある。ナヒチバンという地域だ。

そのナヒチバン唯一の5つ星ホテル「Duzdagホテル」の別館として「ソルトケープ・ホテル」がある。塩の洞窟という名前だ。

Duzdagホテルの本館からは車で数分。ソルトケープ・ホテルにはシャワーやレストランはないので、本館で夕食を取り自室で入浴し、寝る準備ができれば車で移動する。

ロビーから洞窟に入っていくと独特の臭いがした。臭いをかぐだけで口がしょっぱい感じがするのだ。さらに、若干、ケモノ臭さも感じた。ただ、臭いには次第に慣れ、何も感じなくなる。

冬に来訪したので外気温よりは

暖かいが、それでもひんやりとする。1年を通じて約15度から18度。夏は外気が40度を超えるので、毎日満室になるらしい。

寝室エリアは、寝室間の仕切りが上下が空いた構造になっている。岩塩のイオンをたっぷり含んだ空気が行き渡る。喘息には抜群の効果があるという。

ホテルの医師は「半年に2週間の割合で宿泊すると、2年間通えば、子どもの約9割は喘息が完治する」と言う。

確かに、起きた時は呼吸だけでなく、体全体がスッキリしていた。起床後、洞窟内のラウンジでハーブティーを飲み、本館に戻る。

日本からナヒチバンまでは、首都バクーを経由せずに、トルコのイスタンブールで乗り換えるのが最短だ。

また、アゼルバイジャンの料理はトルコ料理に似ている。地ワインも安価でおいしい。

いいいいたる
1990年東京大学大学院医学系研究科修士課程修了。外資系金融機関を経て97年から現職。著書に「シワ消える! コモ・シャンバラ」「慶應幼稚舎」などがある。本業の金融コンサルタントのほか、名門小学校の「お受験教室」も経営